



井手やまびき支援学校学校経営方針 アクション7

～開校第2期「まぶき3年間」(R7,R8,R9)～

【経営方針】(中期経営方針) 「京都府における地域密着型モデル校」の追求

学校教育目標「みがく まぶき きりひろく」の実現に向け、開校第1期を「みがく3年間」として位置付け、その成果を礎とする第2期を「まぶき3年間」として始動する。第1期で築いてきた12年間の学びをつなぐ教育課程を土台にさらに発展を図る。また、「京都府における地域密着型モデル校」として、インクルーシブ教育システムの構築を目指し、子どもたちが地域の中で「自分らしく」「いきいきと」役割を果たしながら暮らしていけるよう、日々の学びと地域社会をつなげる教育を推進する。

そのために、学校予算の合理的かつ効果的な執行を図るとともに、基盤課題・重点課題【アクション7】に基づく学校経営を推進する。



基盤となる課題

act 1

教職員の「学び・働く」を支える環境、"教職員の学びが子どもの未来をきりひろく"

- ・働き方改革の定着と働きやすい職場環境
- ・研究・研修やOJTの充実 / 外部専門家の活用と学びやすい職場環境
- ・「京都府教員等資質能力の向上に関する指標」におけるキャリアステージの役割を踏まえ、担うべき立場や責務を果たす。
- ・コンプライアンス遵守

act 2

教職員の専門性を活かした連携と協働、地域・家庭・専門家との「まぶき」で教育力を高める

- ・インクルーシブ教育システムの構築を目指した交流及び共同学習
- ・学校運営協議会・教育後援会・PTA・US・UBとの協働体制の強化
- ・地域貢献活動の深化（清掃活動・図書ラウンジ開放など）
- ・ISCC・こまちサロンなど地域リソースの活用と展開
- ・医療的ケア校内体制の確立
- ・学校経理、施設設備、情報管理、情報発信、危機管理

重点課題

act 3

どのような時代においても必要な資質・能力の育成

- ・主体的・対話的で深い学びの授業づくり、授業改善と教育課程改善（まぶきカリキュラム、自立活動・教科別の指導）
- ・「個別最適な学びと協働的な学び」の一体的な推進
- ・ICT・GIGAスクールの活用

act 4

生涯に及ぶ生きる力の育成のための基盤作り

- ・言語活動につながる読書活動の充実・読書バリアフリーを目指した図書環境の整備と活用
- ・ISCCによる体験活動と地域交流
- ・生涯スポーツ・生涯学習

act 5

大人に向けた健やかな体、豊かな心の育成

- ・人権教育 / 安全教育 / 性教育 / 主権者教育 命や人権の大切さ、多様性、社会の一員としての意識を育む
- ・保健指導 / 教育相談 心と体の健康を支え、安心して過ごせる相談体制

act 6

自立と社会参加を実現し、幸福な人生とよりよい社会づくりを目指す力の育成

- ・自己理解 / キャリア教育 / 進路支援 自分を知り、将来につなげる教育

act 7

早期支援を重視し、切れ目なくつなげる地域支援の推進

- ・「井手やまびき相談・支援センター+全校」で地域全体を支える体制
- ・巡回相談 / 園・小中高との情報共有 / 関係機関連携



井手やまぶき支援学校グランドデザイン

教育理念

地域と共に歩む学校

校是

光輝 地域(まち)を照らせ

学校教育目標

みがく むすぶ きりひらく

目指す人間像

よりよい社会と幸福な人生を創り出せる人



小学部

目標

中学部

目標

高等部

目標

めざす子ども像

- みがく子 自分の良さを知り、学ぶことの楽しさや喜びを積み上げ、自ら学び自らを「みがく子」
- むすぶ子 仲間と「むすび」、学び合い、ともに豊かに活動する子
- きりひらく子 身につけた力を発揮し、地域と共に、協働し自分らしく未来を「きりひらく子」



めざす教職員像

- みがく教職員 子ども一人ひとりの小さな変化にも気づき、個性や能力を最大限に伸ばすと共に、自己教育力を持ち、学び、成長し続ける子の手本となる教職員
- むすぶ教職員 他の教職員、保護者や地域社会、多様な専門性を持つ人材とつながり、分担しながら組織的・協働的に取り組む教職員
- きりひらく教職員 探求心を持ち、時代の変化をつかみ、未来を展望し、自らの資質能力を高めながら様々なことに挑戦する教職員

アクション7

◆ACT 4

生涯に及ぶ生きる力

◆ACT 5

健やかな体豊かな心

◆ACT 6

自立と社会参加

◆ACT 3

資質能力の育成

◆ACT 1

教職員の学び

◆ACT 2

連携・協働

◆ACT 7

地域支援